

近視進行抑制用レンズの処方・装用における注意点と流れ

1. 処方前の検査について

- **調節麻痺下の検査が必須**：より正確な近視度数を測定するため、調節麻痺薬（目薬）を使用した検査を行います。
- **所要時間**：点眼後、薬の効果が出るまでに約 1 時間かかります。
- **検査後の影響**：薬効により 1 日～2 日間は眩しさを感じたり、近くが見えにくくなったりします。

2. 処方後の眼科受診のスケジュール

- **装用開始から 2 週間後**：メガネ作成後、装用状況やメガネをかけた状態での視力を確認するため受診が必要です。
- **以降の定期検診**：3 ヶ月毎に視力・眼軸・眼位の測定。必要に応じ調節麻痺剤を用いた検査を行い、近視度数の変化を確認します。度数変化に応じて再処方を行います。

3. レンズの費用と保証制度（取り扱い眼鏡店にて）

- **費用**：77,000 円です。
- **保証期間**：半年間の保証期間が設けられています。
- **フレームの位置の管理が必要。レンズの中心を瞳の中心と一致させるため。**

4. 装用上の注意点・見え方

- **見え方の安定**：装用開始から見え方が安定するまでに**約 2 週間**かかります。
- **運動時の注意**：見え方が安定するまでの期間は、事故防止のため激しい運動、球技、スケートボード、自転車などの利用に十分注意してください。

5. 副作用と治療終了の目安

- **副作用**：本レンズに直接起因する副作用の報告はありません。
- **治療の中止・再開**：リバウンドは生じないとされているため、理由を問わずいつでも中止可能です。
- **終了の判断**：通常 18 歳前後で進行が安定します。6 ヶ月ごとの受診で 2 回連続して屈折値と眼軸長に変化がなければ中止を考慮します。
- **中止後の観察**：中止後も可能であれば 6 ヶ月ごとのモニタリングを継続し、進行が再開した場合は再装用を検討します。